

就任4年目を迎えた今

季。中央大学ラグビー部監督の松田雄(40)は考えた。

「ラグビーも仕事も遊びもすべてに一生懸命な人。今の学生や自分にもいものを持っていて」。同じ関東大

学リーグ戦のライバル校、大東文化大学出身で、1歳

年上の酒井宏之(41)の力を借りることを決めた。

「目標にする指導者はいない」と言い切る松田だが、

酒井に対しては特別な感情を持っていて。リコー時代に

主将、副将の関係だったとはいえ、実は公私をともに

にするほど親しい間柄ではなかった。「技術を教える

だけなら外国人コーチでもいい。選手に最高の思い出す

をつくってやりたかった」

「酒井さん、お願いできませんか」。昨年1月に松

田は意を決して電話する。

大学ラグビーは「純血主義」を貫くケースが多い。まし

# 名将にみる マネジメント術

## 中央大学ラグビー部

### 松田 雄監督



ヘッドコーチに就いた酒井氏(左)と松田監督

# 「中大一族」さらなる高みへ

て酒井は2011年度に大東大のアシスタントヘッドコーチを務め「(大東大のカラーの)緑の血が流れている」と言われるほど。飲食店や俳優業などで多忙な酒井だったが「松田監督に口説かれた」。自身のプロ

で酒井は2011年度に大東大のアシスタントヘッドコーチを務め「(大東大のカラーの)緑の血が流れている」と言われるほど。飲食店や俳優業などで多忙な酒井だったが「松田監督に口説かれた」。自身のプロ

が薄く、保護者の金銭的な負担を減らすため、自身の存分に味わっている。OB、保護者だけでなく、今は部に関わるすべての人々を「中大一族」と呼ぶ。試合でトライを決めると、スタンドの部員たちから東京ブギウギの替え歌「中央ブギウギ」が聞こえてくる。

昨年3月。寮で開いた新チームの初会合。酒井はピロコイ在籍中、フィットネスでは誰にも負けなかった。松田はそのすべてに真摯な姿勢を知っていた。酒井がヘッドコーチに、同じ大東大出身でプロ格闘家として活躍した渡部謙組織で学生を後押ししたか

た。今でも「親分」と松田を慕う人材サービスポール・パートナーズ(東京・港区)社長の小林義典(36)、西原貴志(38)ら世代を超えたOBが強力に支援。サポーターズクラブの輪はぐんぐんと広がっている。松田や酒井、渡部らの目標の全国大学選手権ベスト4へ向け、松田率いる「中大一族」はさらなる高みを